

2002年4月

— 全国の40代以上の男女1,070名に対するアンケート結果からみた —

老人福祉分野におけるボランティア活動

第一生命保険相互会社(社長 森田富治郎)のシンクタンク、ライフデザイン研究所(所長 千葉商科大学学長 加藤寛)では、全国の40代以上の男女1,070名を対象に標記についてのアンケート調査を実施いたしました。

このほど、その結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

目次

アンケート調査の実施概要	1
【地域活動・ボランティア活動への参加状況】	2
【ボランティア団体の所属割合】	3
【ボランティア活動のイメージ】	4
【ボランティア活動への参加意向率】	5
【老人福祉分野への活動意向率(個別)】	6
【老人福祉分野への参加意向(全体)】	8
【ボランティア活動における老人福祉分野への選択】	9
【研究員のコメント】	10

*この冊子は、当研究所発行の調査月報、「LDI REPORT」の4月号の要約です。
「LDI REPORT」を4月号ご希望の方は、
右記の広報担当までご連絡ください。

お問い合わせ

株式会社ライフデザイン研究所
業務推進部広報担当 / 福原・岸

〒100-0006

東京都千代田区有楽町 1-13-1

TEL . 03 - 5221 - 4772

FAX . 03 - 3212 - 4470

アンケート調査の実施概要

1. 調査対象 全国の40代以上の男女1,070名
(ライフデザイン研究所のモニター)

2. 実施時期 2001年11月

3. 調査方法 質問紙郵送調査法

4. 有効回収数(率) 1,015名(94.9%)

5. 回答者の属性

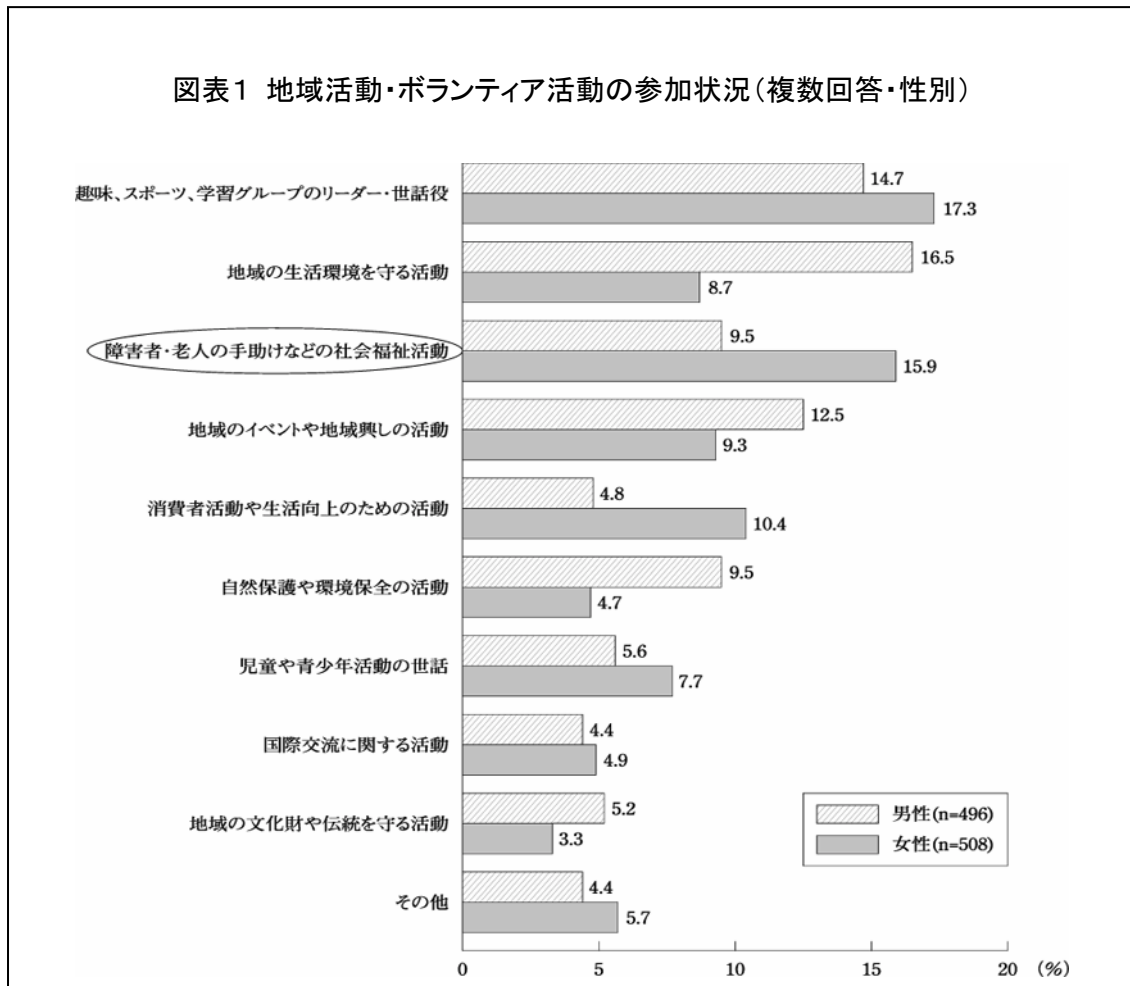
(単位:人)

	40代	50代	60代	70歳以上	不明	合計
男性	139	145	149	59	4	496
女性	147	150	147	60	4	508
不明	---	---	---	---	11	11
全体	286	295	296	119	19	1,015

地域活動・ボランティア活動への参加状況

- ① 半数近い人が、地域活動・ボランティア活動に参加している。
- ② 「障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動」では、男性の9.5%、女性の15.9%が参加しており、男女の差が大きい活動といえる。

図表1 地域活動・ボランティア活動の参加状況(複数回答・性別)



現在、どのような地域活動やボランティア活動に参加しているかを調査しました。

この結果、最も多く参加している活動は「趣味、スポーツ、学習グループのリーダー・世話役」で、男性14.7%、女性17.3%に達しました。

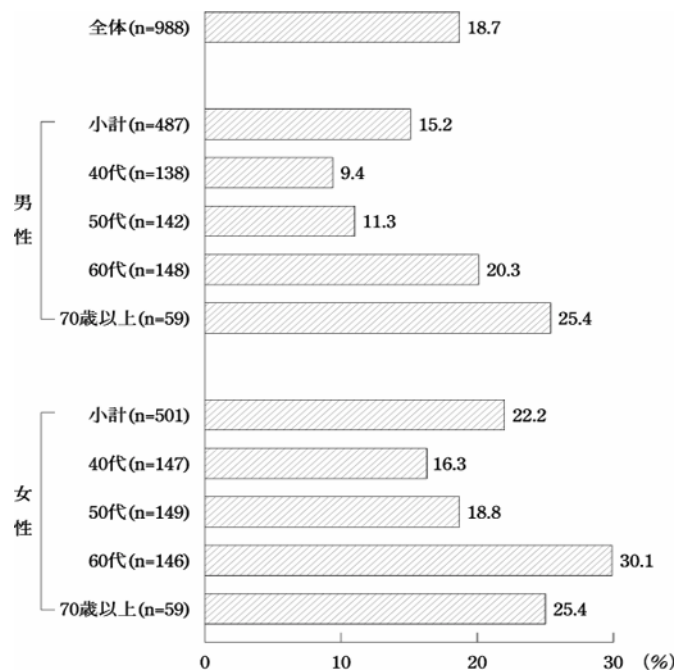
また、「障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動」に参加している割合は、男性9.5%、女性15.9%で、全体では12.7%になりました。このように「障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動」は、男女間の差が大きな活動であるといえます。

地域活動・ボランティア活動に参加しているトータルの割合は男性で44.2%、女性で48.0%とかなり高い結果になりました(図表略)。今回の調査結果から、40代以上のうち半数近い人が、地域活動やボランティア活動に参加していることがわかりました。

ボランティア団体の所属割合

- ① ボランティア団体に所属している割合は、男女全体で 18.7%。
- ② 年齢別にみると、59 歳以下と 60 歳以上では、ボランティア団体の所属割合に大きな差がみられる。

図表2 社会奉仕・ボランティア活動の団体所属率(性・年齢別)



次に、実際にボランティア団体に所属している割合を調べてみました。

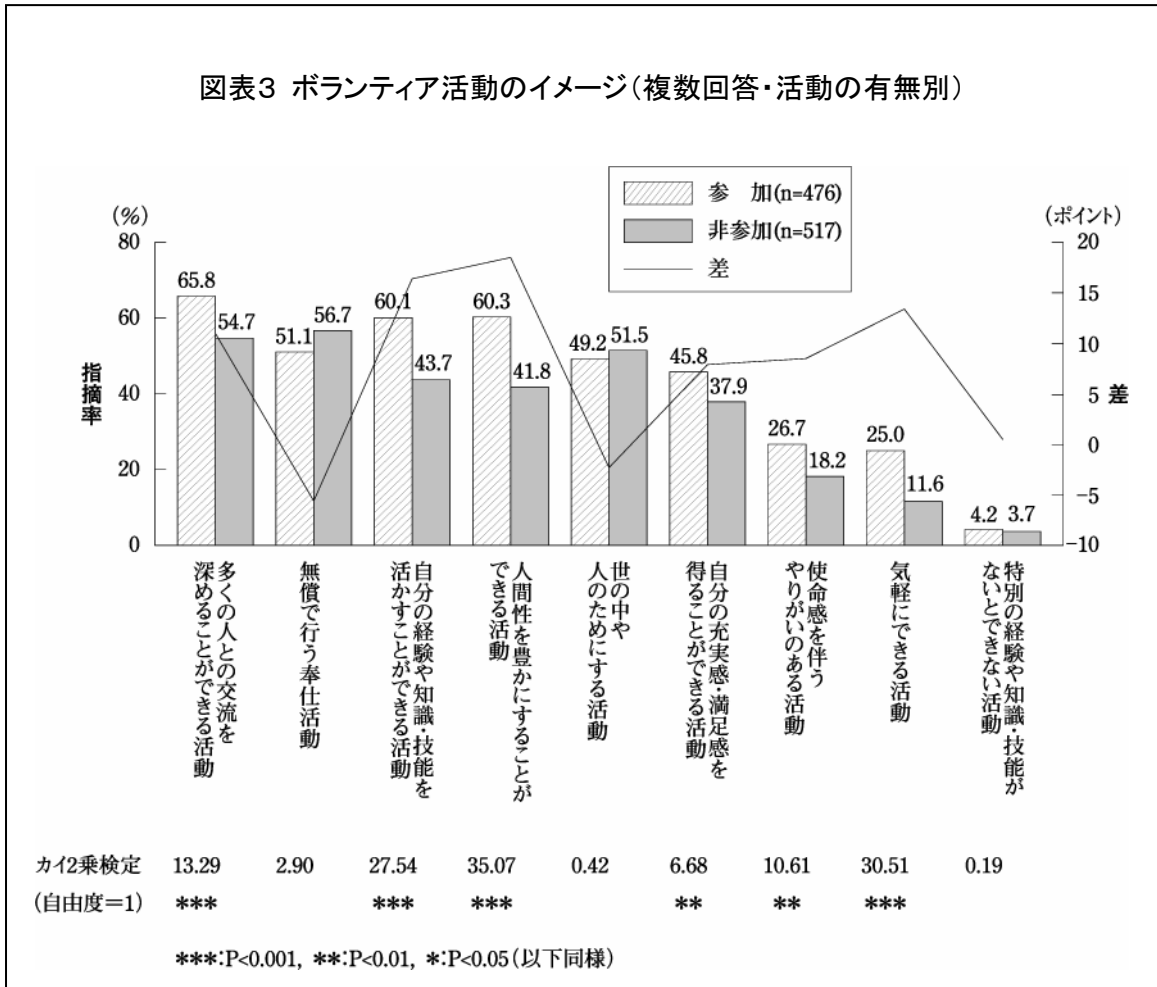
この結果、男女全体では、18.7%とほぼ2割近くの人が、何らかのボランティア団体に所属しており、性別でみると、女性の方でこの割合は高くなっています。

また、59歳以下と60歳以上の人では定年退職の時期をはさむことから、所属している割合に大きな差があり、ボランティア活動において年齢による効果がみられます。

ボランティア活動のイメージ

○ 現在、地域活動やボランティア活動している人は、活動していない人と比べ、「人間性を豊かにする」「自分の経験や知識・技能を活かせる」というイメージを持つ割合が高い。

図表3 ボランティア活動のイメージ(複数回答・活動の有無別)



現在、地域活動やボランティア活動をしている人としていない人に分けて、ボランティア活動のイメージについて聞いてみました。

この結果、活動していない人に比べ、活動している人は、「人間性を豊かにすることができる活動」「自分の経験や知識・技能を活かすことができる活動」「気軽にできる活動」というイメージを持っているようです。

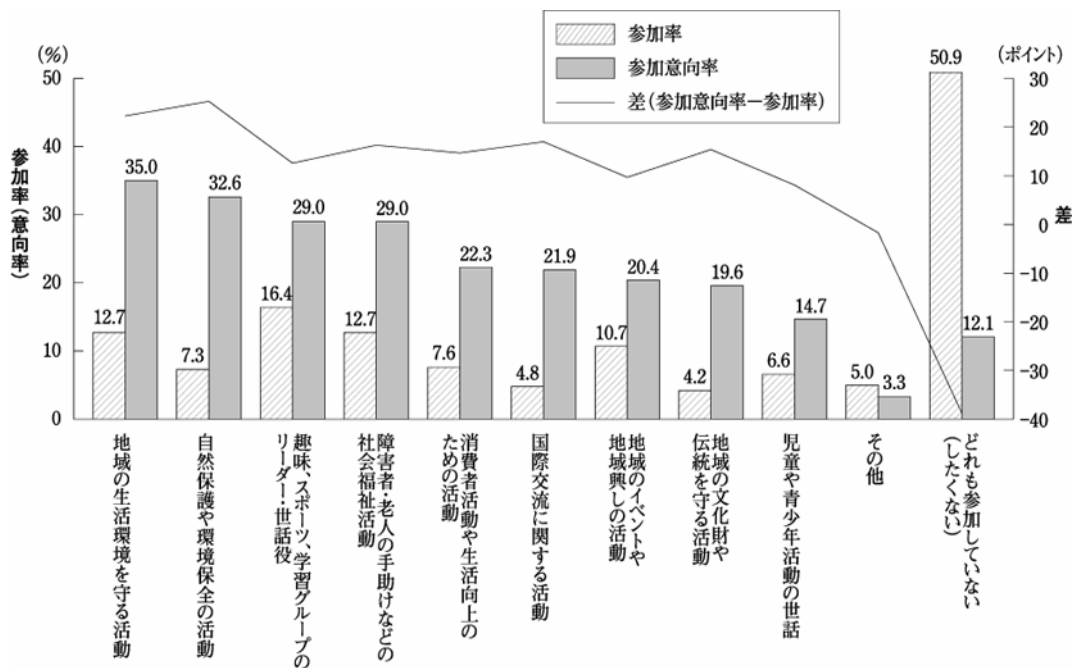
このように、両者の差が大きな項目をみると、どちらかという他人の為というよりは、自分の人間性を豊かにしたり、自分の技術を生かせる、あるいは交流を深めることができる、などといった自分自身にとって役に立つイメージが目立っています。

一方、両者の間にあまり差がみられない項目は「無償で行う奉仕活動」「世の中の人のためにする活動」といった、本来のボランティア活動の定義に等しい項目でした。

ボランティア活動への参加意向率

- ① 参加意向率第1位は、「地域の生活環境を守る活動」で35.0%。
- ② 「障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動」は第4位で29.0%。

図表4 ボランティア活動種類別の参加率と参加意向率（複数回答）



ボランティア活動への今後の参加意向について質問してみました。

ここでは、現在参加していて、今後もそれを継続したい場合も参加意向率に含めています。

この結果、参加意向率が最も高かったのは「地域の生活環境を守る活動」で35.0%に達し、次いで「自然保護や環境保全の活動」の32.6%となりました。近年、環境保全の意識が高まっていることから、これら活動への参加意向は高いようです。

これに対して「障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動」は第4位に位置し、29.0%と3割近い意向率でした。また、“現在、参加していないが、今後はしてみたい(図表では、参加意向率と実際の参加率との差)”割合は、16.3ポイントもあり、「障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動」への潜在的なニーズの強さがうかがえます。

老人福祉分野への活動意向率（個別）

- 高齢者介護ボランティアへの活動意向率は高く、トータルで見ると、施設系で8割程度、在宅系では7割程度にも達する。

図表5 老人福祉分野のボランティア活動別活動意向率（複数回答・性別）

(単位:%)

施設ボランティア	男性 (n=496)	女性 (n=508)	全 体 (n=1,015)
趣味、学芸の指導(書道、生け花、楽器、等)	21.4	24.2	23.1
行事の企画・手伝い(誕生会・定期交流会、等)	30.2	42.3	36.3
施設内外の環境整備(植木・街路樹の手入れ)	30.2	11.2	20.5
清掃(草抜き・窓ふき、トイレ・ふろ掃除、ワックスがけ)	21.2	13.2	16.9
園芸活動(花壇の草抜き・植え替え、庭木の剪定、庭木の水やり)	31.0	21.1	25.8
生活援助(洗濯、食事介助、入浴時の着替え・シーツ交換)	4.6	18.9	11.7
施設利用者のショッピングや散歩の付き添い	22.0	42.7	32.5
施設系全体	75.8	83.3	79.5
在宅ボランティア			
独居老人の移送、運搬(施設への送り迎え、弁当の配達・弁当箱の回収)	21.8	14.4	18.0
独居老人の話し相手、読書	30.4	53.1	42.0
独居老人宅のペットの世話(犬の散歩、ペットの世話等)	12.1	10.4	11.1
独居老人宅の留守番	15.9	16.5	16.1
独居老人の買い物代行	30.0	43.1	36.7
在宅系全体	60.3	72.2	66.3
その他	3.4	2.4	2.9
特に参加したいとは思わない	12.5	7.9	10.0

老人福祉分野である「高齢者介護に対するボランティア活動」について、生活者はどの程度、活動意向を持っているのでしょうか？

一般に、「高齢者介護に対するボランティア活動」は、“介護施設内での活動”と“在宅介護での活動”に分けられ、各々できる内容に差があるといわれています。

そこで、高齢者介護を施設系と在宅系に分け、さらに具体的事例をあげながら、これら活動意向を聞いてみました。

<施設系ボランティア活動>

性別でみると、男性の場合、「園芸活動（花壇の草抜き・植え替え、庭木の剪定、庭木の水やり）」（31.0%）、「行事の企画・手伝い（誕生会・定期交流会等）」（30.2%）、「施設内外の環境整備（植木・街路樹の手入れ）」（30.2%）などが3割を超える意向率を示しました。比較的アウトドア系の活動である点が男性の特徴のようです。

一方、女性の場合は「施設利用者のショッピングや散歩の付き添い」（42.7%）、「行事の企画・手伝い」（42.3%）が特に人気の高い活動でした。

このように、施設系ボランティア活動で、何らかの活動する意向を示した割合は男性で75.8%、女性で83.3%にも達しました。

<在宅系ボランティア活動>

在宅系ボランティア活動に関しては男性、女性ともに「独居老人の話し相手、読書」、「独居老人の買い物代行」がそれぞれ高い支持を得ました。

また男女別にみると、両者ともに女性の方がはるかに高い割合となりました。特に「独居老人の話し相手、読書」に関しては、女性の半数以上(53.1%)が活動意向を持っています。

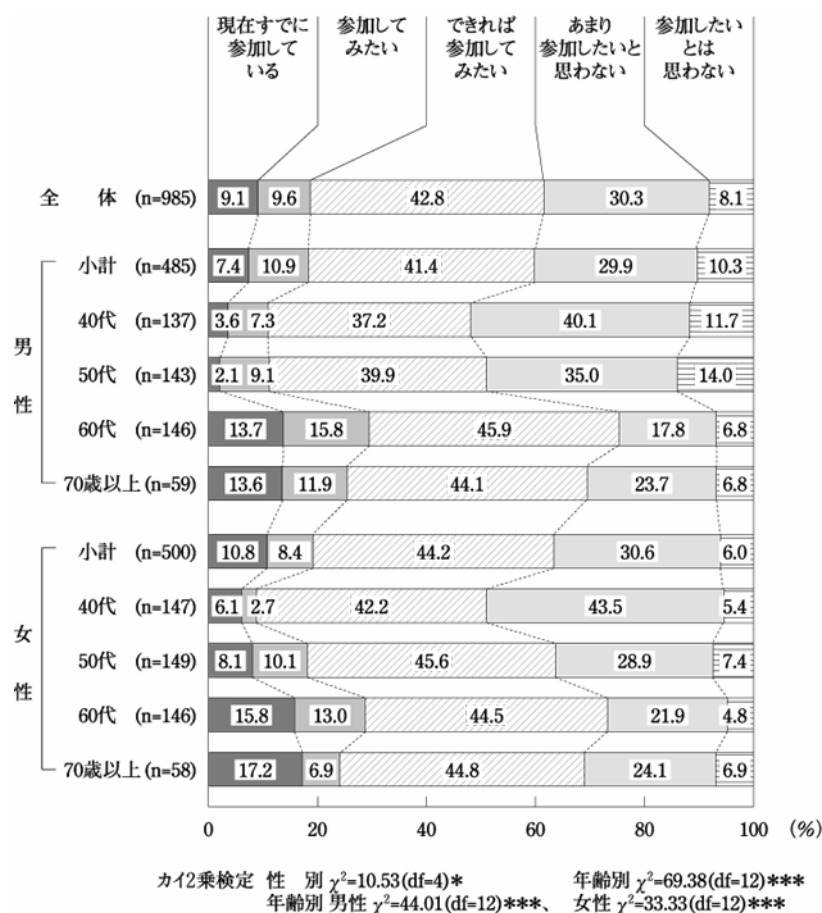
このように、在宅系ボランティア活動で、何らかの活動する意向を示した割合は男性で60.3%、女性で72.2%と高い結果になりました。

以上のように、老人福祉分野のボランティア活動では、具体的な活動を提示されると、生活者は、その参加の判断を決めやすいのかもしれませんが。

老人福祉分野への参加意向（全体）

- 老人福祉分野におけるボランティア活動意向は、60代以上で高まる傾向にある。

図表6 老人福祉分野におけるボランティア活動の参加意向（性・年齢別）



老人福祉分野全体におけるボランティア活動への参加意向を尋ねてみました。

この結果、「現在すでに参加している」との回答が9.1%であり、「参加してみたい」(9.6%)、「できれば参加してみたい」(42.8%)をあわせると、実に6割が参加しないしは参加意向を示しました。この参加意向を示す割合は、質問の流れの影響もありますが、非常に高い数値といえます。

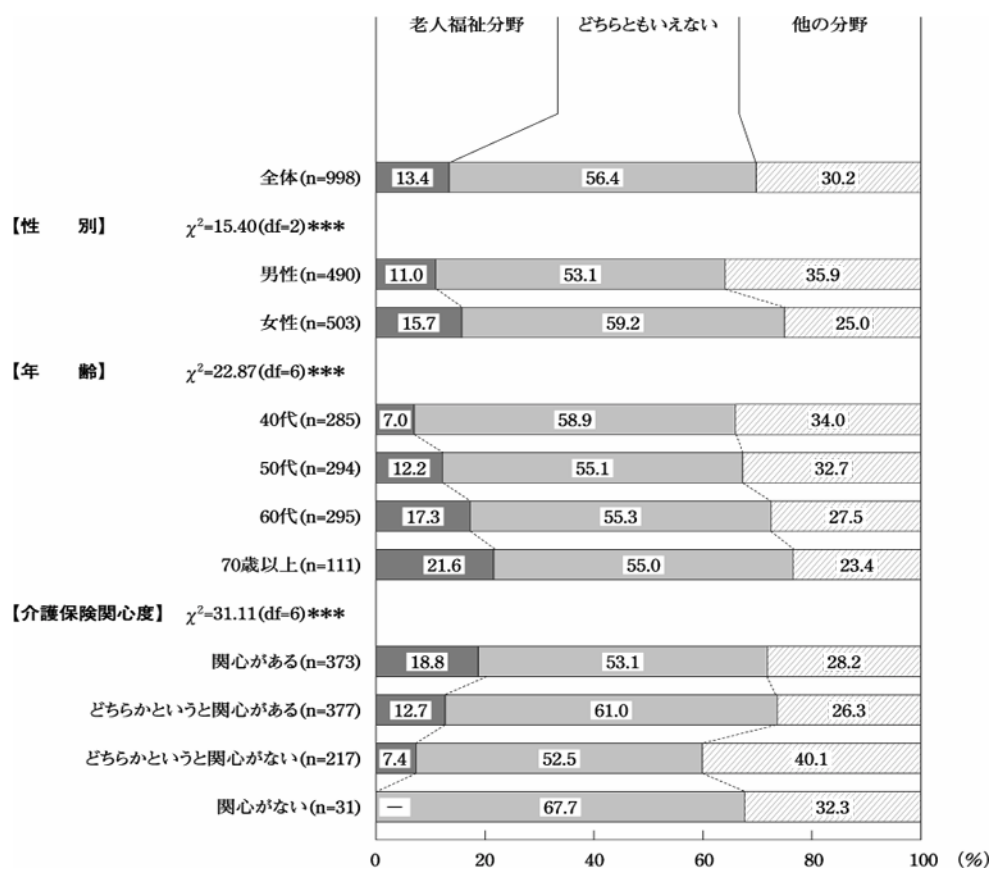
性別では、女性の方が参加意向を示す割合がやや高く、年齢別でも、全体として60代以上で参加意向を示す割合が高くなり、特に男性でこの傾向が顕著にみられます。この理由として、定年退職が大きな要因となっていると考えられます。

ボランティア活動における老人福祉分野の選択

老人福祉分野でボランティア活動を選択する人は13.4%、それ以外の分野は30.4%に達する。

年齢や介護保険への関心度が高まるにつれ、老人福祉分野を選択する割合も高まる傾向にある。

図表7 老人福祉分野と他の分野の選択(性・年齢・介護保険関心度別)



ボランティア活動をする際、老人福祉分野とそれ以外の分野のどちらを選択するかを質問してみたところ、老人福祉分野を選択する人は13.4%で、それ以外の分野の30.2%と大きな差がみられました。

性別では、女性の方がやや老人福祉分野を選択する人が多く、また、年齢別にみると、年齢が高くなるほど老人福祉分野を選択する割合が高まる結果になりました。この理由として、高年齢ほど、より老人福祉分野を身近に感ずるようになるからではないかと考えられます。

また、介護保険への関心度別では、介護保険に関心を持つ人は明らかに老人福祉分野を、関心を持たない人はそれ以外の分野での活動を選択する傾向がみられました。

研究員のコメント

2000年4月にスタートした介護保険制度は在宅介護と施設介護の2つのサービスがあります。しかし、そのサービス内容は厳密に決められており、例えばペットの散歩は訪問ヘルパーはできないことになっています。要介護者の生活を潤いのあるものにしていくためには、介護保険で決められているサービスだけでは十分ではありません。これは特別養護老人ホームなどの施設サービスについても同様です。こうした、**介護保険サービス以外の部分でのサービスを提供する上でボランティアは大変重要な役割を担っています。**

今回、40歳以上の中高年に属する人たちへのアンケート調査を行いました。地域の老人福祉分野でのボランティア活動の参加意向率は、「現在参加している」人たちを含めて、実に6割に上りました。さらに、施設ボランティア活動で、誕生会などの行事の企画・手伝いといった**個々の具体的な活動を例にあげると、さらに参加意向率が高まる**ことも分かりました。こんな活動だったら自分でも出来ると考えて、参加してみたいと思うからでしょう。その意味でも、ボランティア活動を募る場合には、具体的にどのような活動をして欲しいかを示した方が参加者は集まると考えられます。

また、老人福祉分野でのボランティア活動に参加意向を示す要因を分析したところ、介護保険に対する関心が高かったり、特別養護老人ホームなどについて理解しているなど、**高齢化問題に関心が高いことが、地域の福祉分野でのボランティア活動への意向を高める**ことが分かりました。このリリースでは言及はしていませんが、地域への関心の度合い、例えば、近所づきあいをする、町内会・自治会の役員を頼まれたら引き受けるといった考えを持っていることもこの意向を高めるうえで重要でした。逆に、時間的な余裕や経済的な余裕があることは、参加を促進する要因にはなっていないようです。

一般に、ボランティア活動というと「無償で行う活動」「世の中や人のためにする運動」といった奉仕のイメージがありますが、地域活動やボランティア活動に参加している人は、こうしたイメージだけでなく「ボランティア活動は気軽にできる」、「多くの人との交流を深めることができる」あるいは、「ボランティア活動は自分の経験・技能を活かす」などといった自分自身のためにも役に立つ、というイメージを持っている人が多いことも分かりました。その意味では、**ボランティア活動を大げさに考えるのではなく、自分でできることからまず始めることが大事である**と言えるでしょう。

ボランティア活動は、行政の足りないところを補う部分も多いのですが、ボランティア活動だからできる先駆的な部分もあります。また、介護保険サービスを行っている現場において、事業者が行っているサービスの問題点や課題を世の中に問いかけるという役割も負っています。その意味では、介護保険サービスに魂を入れるのもボランティア活動ではないでしょうか。

（主席研究員 鈴木 征男）